

# 渋川市議会 会派 きぼう・政策調査会 視察研修報告

平成29年3月31日

きぼう 代表 望月 昭治  
政策調査会 代表 細谷 浩  
議長 中澤 広行

1. 視察日程 平成29年2月6日～8日
2. 視察場所 熊本県熊本市、山鹿市、福岡県宗像市
3. 視察議員 議長 中澤 広行  
きぼう 望月 昭治・須田 勝・星野 安久  
政策調査会 細谷 浩・山内 崇仁・池田 祐輔
4. 視察概要 平成28年4月16日に熊本地震が発生し、甚大な被害が発生した。その被災状況及び復興状況についてを確認した。  
どこの自治体でも少子高齢化問題に悩まされており、昨今認知症についても該当者が増えつつあり、先進的な取り組みをしている山鹿市を訪ね「認知症等事業について」を調査した。  
福岡県宗像市では、「子ども基本条例について」、「道の駅むなかたについて」を調査した。
5. 視察報告  
(1) 熊本県熊本市（平成29年2月6日）

熊本市は、九州の中央、熊本県の西北部に位置し、人口約74万人、サービス産業が中心の都市で、そのほか、IC産業の集積、全国でも高い生産性を誇る都市型農業、水産業が展開されている。

平成28年4月14日、16日に最大震度7を計測する地震が2度発生し、震源地が熊本市、益城町周辺であり、九州地方で震度7の地震を観測したのは、気象庁の観測が始まって以来、初めてのことである。

地震発生後、約10ヶ月が経過しようとしているが、ビニールシートが掛かった屋根、墓石が崩れたままの墓地、陥没した道路等が様々な場所で散見される。観光名所である「熊本城」においては、テレビ等で報道されている通り瓦は剥がれ落ち、基礎部分も崩壊寸前の状態となっており、本格復興が始まっているが、完全復興までには20年かかるとの可能性があるとのことである。早期の復旧を期待したい。



## (2) 熊本県山鹿市（平成29年2月7日）

山鹿市は、平成17年1月15日に山鹿市・鹿北町・菊鹿町・鹿本町及び鹿央町の1市4町が合併し、新たな「山鹿市」として誕生した。

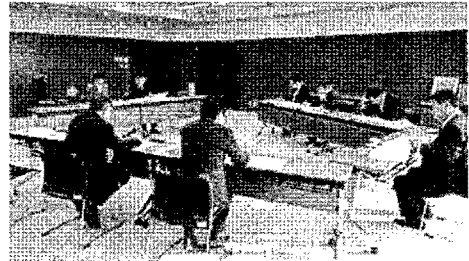
山鹿市の人口は、約53,700人、高齢者約18,500人（高齢化率34.4%）である。総面積は、約300km<sup>2</sup>で、熊本県全体の4.0%を占めています。土地の利用状況は、農用地の割合が県全体の構成比より高く、市北部では森林の割合が高くなっている。

山鹿市福祉部長寿支援課地域包括支援係より『山鹿市の認知症支援のとりくみ』～認知症であってもなくても、ともに暮らし続けられるまちづくり～についての視察を実施した。

### ●山鹿市の高齢者福祉行政サービスに対する基本的な考え方

（2つの基本方針と7つの柱）

- ・高齢者の生きがいと健康づくり
  - ①高齢者の生きがいづくり
  - ②健康づくり・介護予防の推進
- ・安心して暮らせるための地域づくり
  - ①住民主体の地域づくり
  - ②高齢者への生活支援の充実
  - ③認知症の人への支援体制の充実や権利擁護の推進
  - ④医療と介護の連携による在宅療養体制の充実
  - ⑤介護保険の持続可能な運営基盤



認知症の人やその家族への適切なサポートや地域住民に対する啓発活動及びネットワーク活動の実践ができる人材育成を目的に、『認知症地域サポーターリーダー』を養成し、サロンの実施、認知症の人と家族のつどい、地域見守り活動や徘徊者捜索への協力等を実施している。

学校区内の地域資源を活用し、『こどもおとしよりSOSマップ』を作成し、何かあった場合には、SOS地点に連絡するような体制を作成した。

## (3) 福岡県宗像市（平成29年2月8日）

福岡県宗像市は、平成17年3月28日、離島である福岡県大島村と合併し、新しい宗像市が誕生しました。人口約96,000人、総面積119km<sup>2</sup>で、海・山・川の豊かな自然に恵まれ、貴重な歴史遺産もあります。

宗像市では、『宗像市子ども基本条例』について視察を実施した。

### ●子ども基本条例

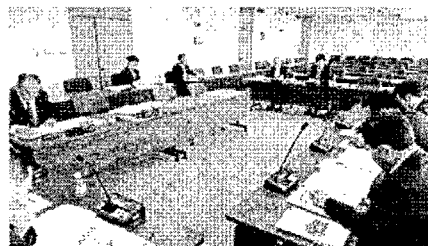
子ども基本条例を平成24年4月1日に施行し、下記の3つの柱を基本にして『子ども・子育て支援事業計画』に沿って各種事業を展開しています。

- ・子どもの権利
  - 子どもは、一人ひとりが権利の主体です。あらゆる差別や暴力から守られ、豊かな愛情のもとで、生き、育ち、参加する権利があります。
- ・大人の責務
  - 大人は、子どもの最善の利益を保障しなければなりません。そのためには、子

どもの気持ちをしっかりと受け止め、一緒に考えたり、体験させたり、教えるを導いていくことが大切です。

・子どもにやさしいまち

子どもが自らの可能性を伸ばし、自分の将来の夢を持てるまちは、すべての人にやさしく、希望に満ちたまちになります。



#### (4) 道の駅むなかた (平成28年2月8日)

福岡県で10番目の道の駅として平成20年に開業した。物産直売所、レストラン、情報提供施設、別館があり、敷地面積13,691㎡、床面積2,026㎡で、年間売上8億円、来館者80万人となっている九州ナンバー1の道の駅である。



物産直売所では、農水産品の販売をはじめ、特産品のブランド化を推進するアンテナショップとして、地域産業の振興を担っている。

レストランでは、旬にこだわり、宗像地域の特徴を活かしたローカル色豊かな漁師料理、農家料理を中心メニューに構成し、地元食材にこだわった料理を提供している。

別館には、米粉パン工房があり、宗像・福津産の米を原料にした米粉で作った米粉パン専門店です。

今後、20,000㎡の増設を予定しており、更なる発展が期待されている。

#### 6. 視察感想

熊本地震から10か月が経過しようとしている時に視察を行ったが、まだまだ復興には時間を要することを確認された。避難所での生活を余儀なくされている方々も大勢おり、震災前の生活に戻るには時間を要するが、復興に向けて頑張ってもらいたい。

山鹿市の認知症の問題、宗像市の子どもに関する条例とも渋川市にとっても近々の課題の一つである。包括支援センター、こども課、教員委員会と連携し、渋川市で暮らす方々が安心して暮らせるまちづくりを進めていけるように今後、更に研究を進める必要があると考える。